

小学校区別特徴及び地区別65歳以上、75歳以上高齢者の割合の状況 (H30. 4. 1現在)

(65歳以上割合, 75歳以上の割合) 上段:H30、下段:H29 / H30 65歳以上認定率

北小学校区

旧長湫村、旧岩作村からなり、旧岩作村エリアは市街化調整区域で大草や北熊地区に特性が近い。旧長湫村エリアは市街化区域になっており、東部分は区画整理地(長湫中部)で戸建住宅が多い。西部分の藤が丘駅近郊は大規模なマンション開発が進んでいて人口が急増する一方、古くからある地域や集合住宅では高齢化が著しく進んでおり、エレベーターがない等生活環境の課題もある。

西小学校区

旧長湫村の一部。地下鉄藤が丘駅の設置に伴って、市街地を拡大する機運が高まり、長久手最初の区画整理事業(長湫西部)が昭和40年代後半からスタートした。その頃から居住する住民が多く、市西部においては高齢化が最も進んでいる小学校区となっている。人口は多いものの、公共施設や買い物できる施設(スーパー、コンビニ)が少ない。

市が洞小学校区

旧長湫村の一部。ほとんどが区画整理事業のエリアで、東名高速の北は長湫西部(昭和40年代後半～)、南は長湫南部(平成10年代後半～)。前者は高齢化が進んでいる一方、後者は若い世帯が大多数を占める。また、最南部に区画整理によらず住宅開発された地区があり、高齢化が著しく進んでいる。

長久手小学校区

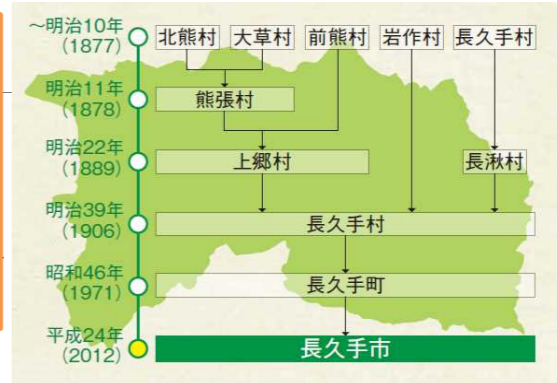
主に旧岩作村、旧長湫村からなり、長久手の行政機能が集まっているエリア。市街化区域と市街化調整区域が混在しており、多様性に富む。区画整理をしていないエリアは古くから住む人が多く、区画整理したエリア(長湫中部)は新しく居住した世帯が多く高齢化率が低い。

南小学校区

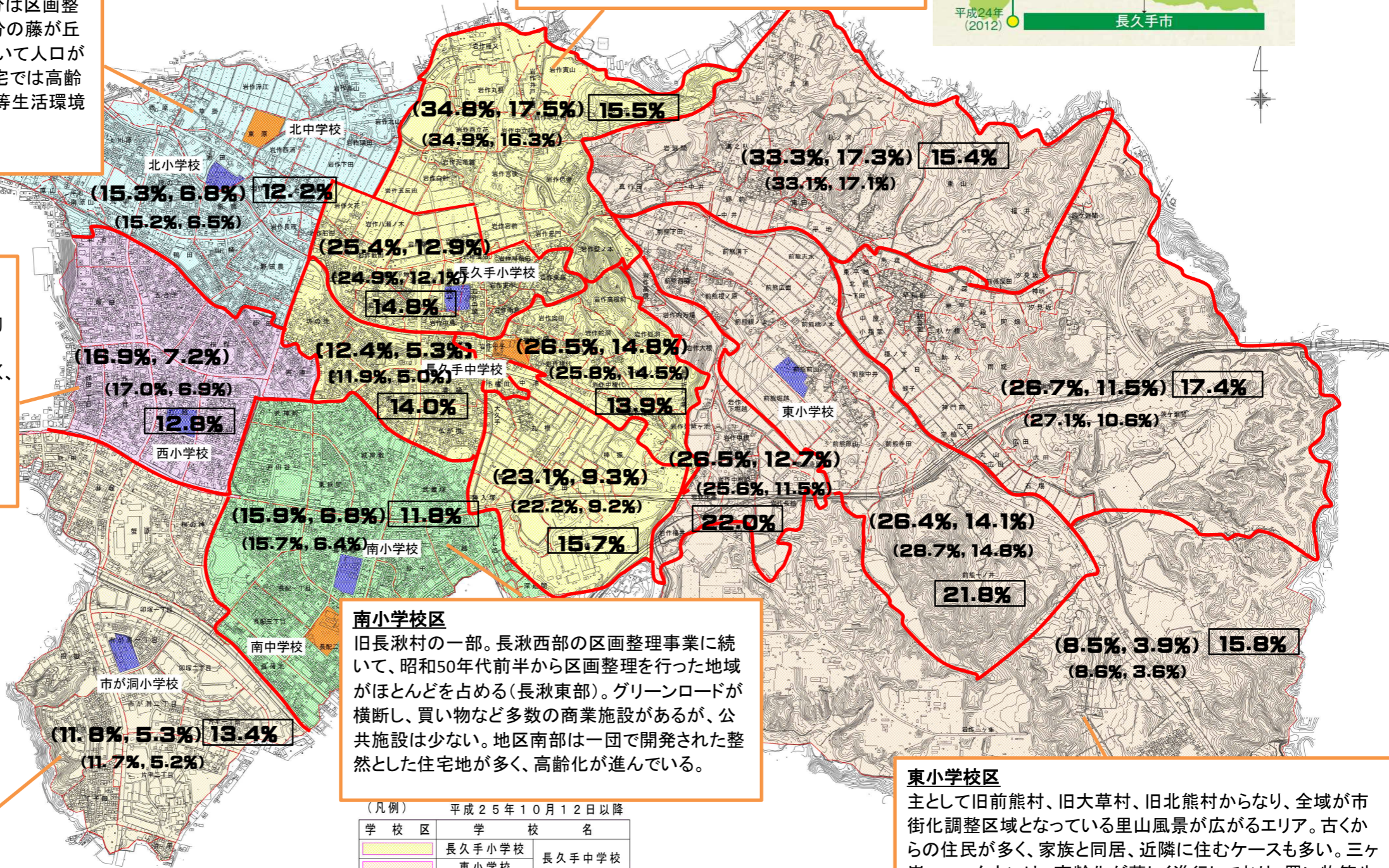
旧長湫村の一部。長湫西部の区画整理事業に続いて、昭和50年代前半から区画整理を行った地域がほとんどを占める(長湫東部)。グリーンロードが横断し、買い物など多数の商業施設があるが、公共施設は少ない。地区南部は一団で開発された整然とした住宅地が多く、高齢化が進んでいる。

東小学校区

主として旧前熊村、旧大草村、旧北熊村からなり、全域が市街化調整区域となっている里山風景が広がるエリア。古くからの住民が多く、家族と同居、近隣に住むケースも多い。三ヶ峯ニュータウンは、高齢化が著しく進行しており、買い物等生活資源がない。モリコロパーク西側の大規模住宅開発やリニモ公園西駅周辺の区画整理が進行中で、若い世帯の流入が加速している。



未定稿



(凡例) 平成25年10月12日以降

学校区	学校名
長久手小学校区	長久手小学校
東小学校区	東小学校
西小学校区	西小学校
北小学校区	北小学校
南小学校区	南小学校
市が洞小学校区	市が洞小学校